

# 人々の暮らしと自然を守る植林 in ラオス

ルアンパバン県での植林事業は、現地の人々が主体となり継続して行われています。昨年度より農業局と協力して行ってきた果樹の増殖活動では、指導を受けた村人が村内だけでなく、他の村や県にも技術指導を行うようになりました。昨年 8 月にルアンパバンを襲った洪水により、増殖を行った苗木の多くが枯れてしまった村もありましたが、「洪水がなければ成功したはず。失敗にめげず何度でもチャレンジしたい」という村人の力強い声を聞くことができました。

ある村では、ダム建設の影響で、5 年かけ作り上げたみかん農園をあと 1 年で放棄しなくてはならないため、村人は増殖活動に意欲を見せています。開発等で立ち退きを余儀なくされる住民がこうした技術を習得することで、その後の生活の見通しをたてることが可能になります。今後も、地域の人々が自ら地域社会を良くしていけるよう支援をしていきます。



植林した木を世話する住人

# 国際協カイベント



毎年開催される国際協カイベント「グローバルフェスタ JAPAN2016(お台場)」、「よこはま国際フェスタ 2016(グランモール公園)」に出展し、写真展示だけでなく、コインパスポートのワークショップを通して、国連ハビタットと日本ハビタット協会が行っている居住環境改善事業を広報しました。福岡の天神中央公園で開催された「地球市民どんたく 2016」では、写真展示やトイレクイズだけでなく、古い木材や布を使い途上国のトイレを再現し、実際に中に入って体験してもらいました。世界の衛生環境の実情の話聞いた多くの来場者から驚きの声があがりました。日本ハビタット協会が実施しているケニアでの衛生環境改善事業を知っていただく良い機会となりました。

# ボランティアデー

毎月第 1・3 火曜日に千代田ボランティアセンターにて、外貨コイン仕分け活動を行っています。空港の募金箱に寄せられたさまざまなコインと紙幣を国別に仕分けします。千代田区内の市民や企業の方々をはじめ、区外からもたくさんのボランティアのみなさまが参加され、毎回とても賑やかに活動しています。どなたでもご参加頂けますので、お待ちしております。



**日時** 毎週第 1・3 火曜日 13:00 ~ 16:00 ※月によって変更有り。あらかじめお問い合わせ下さい。※ご都合良い時間帯でご参加頂けます。  
**場所** かがやきプラザ 4 階 千代田ボランティアセンター内 会議室 **お問い合わせ** NPO 法人日本ハビタット協会 TEL: 03-3512-0355

# 企業ボランティア

外貨コイン仕分け活動に多くの企業ボランティアが参加しています。火曜日に開催しているボランティアデーの参加だけではなく、企業内で就業後や休み時間を利用して、社員のみなさんが外貨コイン仕分けに協力して下さっています。また、夏休みなどには家族向けのワークショップも開催しています。全労済で夏休みを利用して開催されたワークショップでは、外貨コイン仕分けをしながら、子ども達は自由研究として、さまざまな国のコインや紙幣の特徴を学びました。

# ★★ ご協力いただきありがとうございます ★★ 2016年7月1日 ~ 2016年11月 (敬称略・順不同)

- ご寄付** 国際ソロプチミスト 熊本一さくら、福岡空港ビルディング(株)、熊本空港ビルディング(株)、(株)新橋スタンプ商会、成田国際空港(株)、関西国際空港(株)、東京国際空港ターミナル(株)、北海道空港(株)、中部国際空港(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、熊本空港ビルディング(株)、那覇空港ビルディング(株)、ハート薬局、よこやま外科乳腺クリニック、日本メドトロニック(株)、コヴィディエン ジャパン(株)、小林 英俊、岡部 晃子、笠 留美子、鎌滝 たみ子、丸井 聡、(有) 岩田時計店、菊地 柳秀、菊池 ヨネ子、兼平 剛志、原田 義信、佐藤 公男、山口 実知子、勝又 宏幸、小林 一、松井 昌子、松本 賢次、常光 チエ子、森 多賀子、石井 清俊、川上 五郎、村野 啓子、珈琲店 ストーンズ、大塚 俊之、竹崎 勲、中井 禮子、中村 勇、中武 喜久代、田中 正昭、文屋 ハナ、濱口 吉右衛門、小山 えり子、滝澤 進、伊木 常昭、マリ・クリスティーヌ、山本 博子、篠原 大作、藤田 美江子、清水 雅子、大木 京子、太田 祥歌
- 切手・書き損じハガキ等** 野口、国際ソロプチミスト八女
- ご協力いただいた方及び団体** ニューサンノー、(株)新橋スタンプ商会、ソフトバンクモバイル、ハビタット福岡市民の会、地球環境基金、ちよだボランティアセンター、シトリックス・システムズ・ジャパン(株)、認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センター、(有) マレイアソシエイツ、岩手大学、シャンドウ ミュリエ、(社) 日本フィランソロビー協会、ジャパングビング、三井物産(株)、(公財)三菱商事復興支援財団、あおぞら銀行、(株)アイ・コミュニケーションズ、(株)ジェーシービー、(株)たんばば農園ふるさと研究所、千代田鍛冶町郵便局、半蔵門駅前郵便局、都道府県会館内郵便局、こどもの夢ネットワーク、今井 杏奈、wara no bag、樋口 謙一郎、花島 光男、ロブソン、菊地 澄子、高橋 智美、ハビタットフレンズ東京・名古屋・仙台・九州・ユース・ハワイ、塚越 勝美、長谷川 隆徳、小泉 邦夫、白浜 靖彦、佐藤 昭二、丹波 佐和子、加藤 弘子、藤村 美保、平良 サキ子、中嶋 健治、小方 辰子、山際 則子
- コイン仕分けにご協力いただいた企業・学校** (株)ジェーシービー、シトリックス・システムズ・ジャパン(株)、全国労働者共済生活協同組合連合会、三菱商事(株)

発行：認定 NPO 法人日本ハビタット協会(発行責任 篠原大作／編集責任 山本 博子)  
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-6-3 都道府県会館 5 階 福岡県東京事務所分室内 TEL／FAX: 03-3512-0355  
E-mail: info@habitat.or.jp／URL: http://www.habitat.or.jp

デザイン・イラスト: 母袋秀典  
2017年1月発行

# HABITAT まちづくり通信 No. 30

..... 日本ハビタット協会 .....

# スマイルトイレ プロジェクト

世界では 24 億もの人々がトイレを利用できずにいます。劣悪な衛生環境下では、常に病気のリスクがつきまとい、病気になれば、医療費等の支出が増えるだけでなく、仕事もできなくなり、収入も大幅に減ります。自宅や職場にトイレがないことは、コミュニティの発展に深刻な影響をもたらします。日本ハビタット協会は、衛生環境の改善を通じた、より良いまちづくりを推進しています。



ワークショップに参加する村人たち

ケニア西部のホームベイ県において、CLTS (Community Led Total Sanitation) 手法を用いた住民の衛生意識の向上と住民によるトイレ建設を進めています。2016 年 11 月上旬、カボンド地区カモロ村にて、保健省や CHV (Community Health Volunteer) 等と協力し住民の意識変革を促すワークショップを行いました。保健省の広報車が村を回り参加を呼びかけ、そのおかげで多くの村人と子どもが参加しました。ワークショップでは、芝生の上に村の見取り図を描き、そこに家とトイレを書き加えていき、どの家にトイレが無いのか、また野外排泄されている場所の情報を共有しました。トイレがない世帯数は 200 中 51 世帯でしたが、それをもとに年間野外排泄される量を計算したところ、あまりの量に村人は驚いていました。その量はなんと 385 トン! また、病気になった場合にかかる費用を丁寧に説明し、村人は病気になるといかに生活が厳しくなるかを知ること、手洗いや清潔なトイレを使うことの大切さを学びました。現在、村人が主体となり持続可能なトイレと手洗い場の建設が進んでいます。安心して使えるトイレと手洗い場により、笑顔あふれるコミュニティづくりを推進していきます。

# 女性が安心して使えるトイレ

女性にとっては、トイレはとても重要で、清潔で安全な個室を持つことができれば、月経や妊娠を安全に管理できます。特に公共施設など不特定多数の人が出入りする場所においては、清潔なトイレの設置が求められています。日本ハビタット協会は、ケニア西部のムンザツィ学校にて女子トイレを 6 基建設しました。今までは女子生徒 66 人に対して、2 基の不衛生なトイレしかなかったため、心身共に負担を強いられていましたが、新しいトイレにより安心して学校生活を送れるようになりました。

# タンザニアの地震 副会長 マリ・クリスティーヌ



アンナ・ティバイジュカ前事務局長と一緒に

アンナ・ティバイジュカ前国連ハビタット事務局長から、9 月 10 日にタンザニアのカゲラ地区でマグニチュード 6 の地震が発生し、貧困地域の多くの住民が被害を受けたと連絡がありました。2009 年に大リーグマリナーズの岩隈投手ご夫妻からのご寄付で建設した、ムゲザスクールの雨水タンクも破損しました。子どもたちの飲料水確保のために早急に修理をする必要があるため、雨水タンクの修繕支援金を送ることを決めました。国連の発表によると、現在、世界人口の 10 人に一人は安全な飲料水を手に入れることが出来ず、3 人に一人がトイレなどの衛生設備を持っていない状況です。日本で暮らしていると、水道をひねるだけで当たり前のように水が出ますし、誰でもがトイレを使用できます。しかし、このような国は決して多くはないのです。昨年秋に国連で採択された「持続可能な開発目標」には 2030 年までに「すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」とあります。この目標の達成に私たち日本ハビタット協会では昨年度からアフリカのトイレや飲料水に関するプロジェクトに力を入れています。皆様方のご協力を得ながら、自分たちのできることを一つずつ実現し、より良い世界を作り出していくために努力を重ねていきたいと思っています。

